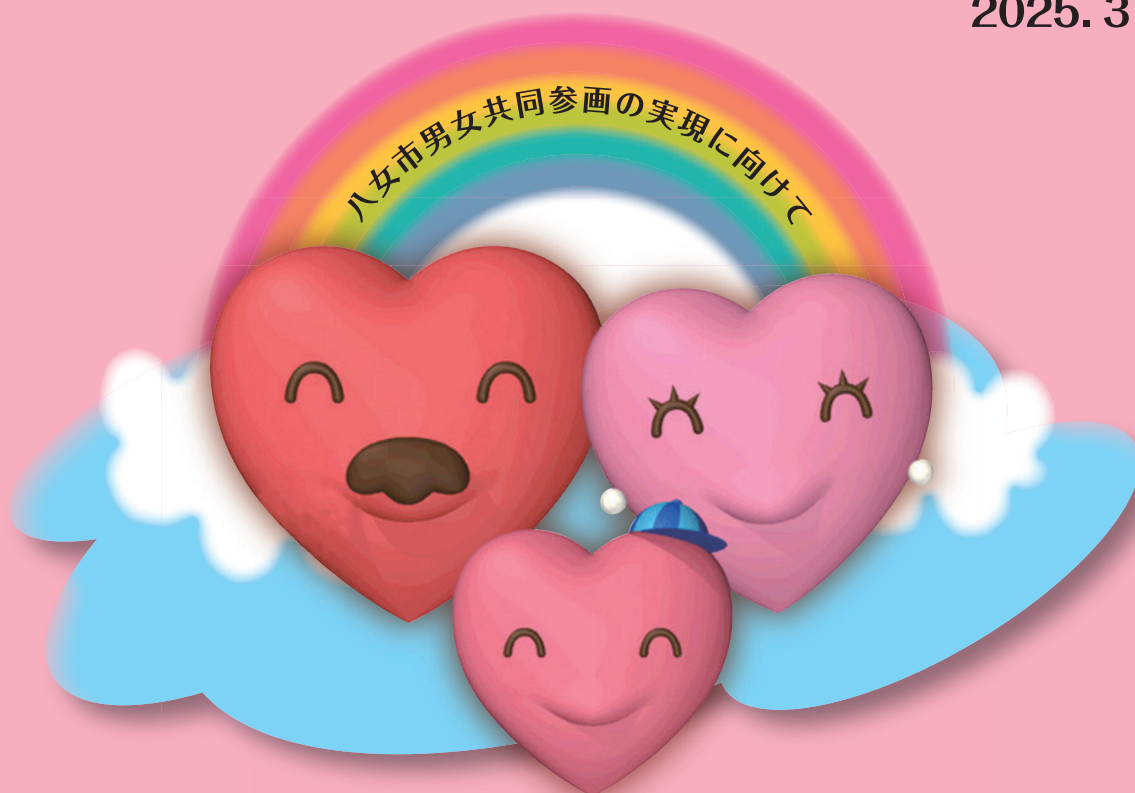


個性が輝く まちが輝く

とっぎゃざー

みんな 仲良く 一緒に

2025. 3. 第32号



よかひとリレー

佐藤美誉子さん・良太さん(黒木町) にインタビューしました! .. 2~3
☆男女共同参画推進まちづくり団体活動報告 4~6
☆女性のためのチャレンジ講座・男女共同参画講演会・編集後記 6



情報誌「とっぎゃざー」は、男女ともに個性と能力が十分に発揮できる八女市を願って名付けました。

発行：こらぼれーと*(八女市男女共同参画情報誌編集委員会)
八女市 人権・同和政策・男女共同参画推進課 ☎0943-23-1314

※こらぼれーと(共同)
情報誌を編集するメンバーのグループ名です。よろしくお願いします。

だれもがどれも選べる社会に



(有) フリーウィル

佐藤美譽子 さん

社会福祉法人 高峰福祉会

佐藤 良太 さん

ご夫婦



よかひと
リレー



プロフィール

★美譽子さん…黒木町生まれ、黒木町育ち。介護福祉士、ケアマネジャー。特別養護老人ホーム、介護老人保健施設などで介護士の経験あり。

★良太さん…広川町生まれ、妻との出会いにて黒木町へ。結婚前は、水道管・電気工事などの仕事をしていたが、結婚後に看護師、ケアマネジャー取得。

平成16年夫婦で黒木町本分にグループホーム(※1)開設。平成21年に黒木町本分、平成29年黒木町笠原に小規模多機能ホーム(※2)開設。

※1グループホームとは、介護保険では認知症対応型共同生活介護といい、認知症の高齢者が少人数で家庭的な雰囲気の中でケアを受けながら、共同生活を送る入居施設。

※2小規模多機能ホームとは、介護保険では小規模多機能型居宅介護といい、在宅の高齢者がデイサービスを中心に訪問介護やショートステイを組み合わせたながら利用できる介護施設。

「私の夫は最大の味方!!」

——介護施設を起業したきっかけをおしえてください。

美譽子さん 当時は、学生に介護技術を教える仕事をしていました。介護実習に行った時の学生から、理想の介護と現実の介護は違うということを相談されたり、自分も働いた経験から、学校で教わる理想的な介護を實現するのはとても大変なことだと夫と話しているうちに「自分で理想的な介護施設ができるんじゃない?」と言われたのがきっかけです。起業するには金銭的にマイナスからの出発だったので、もしうまくいかなかったら、建てたホームは自分たちの家にしよう!と夫が背中を押してくれました。

——施設を経営する中で男女の共同、働きやすい職場環境について思うことはありますか?

美譽子さん あまり意識していませんが、介護業界は人材不足という現状があつて、なんでも得意な人なんてそうそういません。お互いにできることを補っています。スタッフひとりひとりの得意なところを考えながら、協力することで上手くいく

ので、お互いに頼んだり、頼まれたり、カバ―しあう関係があると働きやすいんじゃないかと思っています。外国籍のスタッフもいますが、日本人だから、外国人だからといった違いはないです。みんな利用者さんがここでどう心地よく過ごしていくかを第一に考えています。

——職場や家庭での協働についてはどうですか?

美譽子さん 家事はできる方がします。最初は洗濯物たたみから夫に教えましたけど、今はなんでもできます。夫は私より几帳面です。(笑)

良太さん 今は自分のこともしたいので、妻に言われそうなのは全部先に終わらせて、自分の時間をつくってます! (笑) 今は職場が黒木と笠原、別々に働いているので仕事も家庭もお互いにいい距離感で協力し合えています。

——笑いがたえずとても仲良しにみえますが、意見が合わないときはどうされていますか?

良太さん 意見の対立はよくありますけど、お互い折れないですね。

美譽子さん 意見が対立していても話し合い(?)が一段落す



ると、私は普段と変わらず何もなかったかのように笑いながら話しかけます。夫は「まだ終わってないよ」って顔していますけど（笑）、お互い根に持つことはないです。

—— 思ったことを気兼ねなく言い合える仲なんです。

美譽子さん 夫は最大の味方です。私とはどちらかというと目の前のことを解決するために行動することは得意だけど、将来的なことにはわりと保守的なタイプなんです。その点、夫は

じっくりしっかり考えることができるので、未来の計算をしてくれる感じです。なにかしように言い出すのは夫で、私はその未来に向かって行動し、夫は後ろからサポートしてくれる感じですね。

—— お互いに認めあう関係性がうまくいくコツのようですね、仕事と家庭の両立についてはどうですか？

美譽子さん とにかく何にでも頼ります。頼る人や何かしらのサービスがなかったら仕事は続けられなかったと思います。子どもが小さい頃は、黒木には早くから病児保育があったし、保育所の延長保育も学童保育も助かりました。ひとりで頑張ってもできる範囲は限られると思うので、何かに頼ることはとても大事だと思います。

—— 最後に仕事に家庭に頑張る方や、これから将来を考える10代、20代の方へのメッセージをお願いします。

美譽子さん いろいろなことがあってまわり道だと思ってても、それは後々ついてくると思っています。夫も私もいろいろな職場を経験してきているので、経験は糧として返ってくる、いろ

んなことにぶつかっても最後はいい方向にいくよって思います。上手いかわなくて心が折れそうでも、だれか一人でもいいから話せる、共感してくれる人がいれば乗り越えられると思うので、夫や友達、本当の味方、最大の味方を一人でも見つけると案外上手くいくと思いますよ。

感想



短い時間でのインタビューでしたが、笑いがあったと思います。

二人の仲の良さが伝わってきました。お互いによく話し、よく聴き、よく笑い：コミュニケーションって本当に大事ですね。お互いを認め合い、高めあえる関係性がとても素敵に思えました。ご夫婦の益々のご活躍を期待しています。



笠原だっでん祭に学生ボランティアと出店しています

各団体

活動報告

男女が輝くネットワークやめ

9月26日(木)

於：おりなす八女研修棟
調理室

第19弾
男子厨房に入ろう

佐藤 雅子

15名の男性の参加があり、ハッピーキッチンの方さんの指導で「飾り寿司」を作りました。

「不安だったが楽しくなった」「家でも孫とトライしたい」「また習いたい」等の感想がありました。

調理台に向かうことは自分の生活を創ることの一步です。そのきっかけになればと思います。



男女が輝くネットワークやめ

11月6日(水) 於：市議会 全員協議会室

市議会との意見交換会

「女性参画・次世代育成」

桜木 恵子

本庁舎市議会全員協議会室において「八女市各分野の女性参画と次世代育成」をテーマに、市議会議員との意見交換会を行いました。

総務文教・厚生・建設経済の各常任委員会から10名の議員と男女が輝くネットワークやめ会員と加入団体会員の12名が出席しました。

「八女市男女共同参画行動計画」・「男女共同参画統計リーフレット」を資料として、政治・経済(特に農業)分野における男女共同参画について、有意義な意見交換を行うことができました。

労働環境や選挙費用、アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み、偏見)などの課題についても認識を共有し、女性参画の環境づくりを進めていきたいと思います。



男女が輝くネットワークやめ

11月23日(土) 於：春日市クローバープラザ

福岡県

ジェンダー平等フォーラム2024

西村 直樹

男女が輝くネットワークやめの会員を中心に14名で参加しました。午前中は「男女共同参画を目指してー意志決定の場に多様な視点をー」をテーマに大牟田市市長の講演に参加しました。現在、副市長と教育長は女性。推薦・選任したのは能力があるからで、女性が選ばれない方がおかしい、トップの意識を変える必要を話されました。

防災部門の職員も当事者の視点に寄り添えるように女性職員を多く配置されています。女性市議会議員も23名中6名と多く、八女市との違いを感じました。

午後からはYouTubeで性教育に関する動画「SHELLYのお風呂場」を配信しているタレントのSHELLY(シエリー)さんの講演がありました。自分で温かい言葉と想って言うことも相手にとっては傷つける言葉になっていくかもしれない、想像力を持つことが大事と呼びかけられていました。



「男女が共に活躍する社会のために」

10月22日(火)

於：(株)TOTOミュージアム(北九州市小倉)

古賀 奈穂

(株)TOTOミュージアムは、創立100周年を記念して創設されたもので、日本のトイレやキッチン、水回りの歴史を紹介しています。家庭の水回り製品を多く取り扱うことから掃除や家事をする人の視点が多く採用されてきたよつです。また、海外向け製品は文化的な要素を大切に、「誰もが快適に過ごせること」を目指し開発されているよつです。

「誰もが快適な」というモノづくりを通して、男女共同参画については女性の管理職を計画的に育成する制度等もあります。社員の仕事と家庭の両立支援、特に子育てサポートに高い水準で取り組んでいる企業として「プラチナくるみん」の認定を受けておられ、実際に男性の育児休暇の取得率も高く、男女関係なくだれもが働きやすい職場だとスタッフの方はお話されていました。具体的な取り組みは厚労省や自社HPにも公開され、育児や介護のライフイベントの際にも働き続けられる様々な制度、パパママ孫休暇などライフスタイルに応じた休暇があります。中でも男性の育児休暇について、男女が共に活躍するための休暇」と位置付

け、女性の家事や育児負担の軽減のためでなく「共に活躍する」ための制度として考えられているところに驚きました。どちらかが大変なことを負担するという発想ではなく、共に活躍する、経験を通じたより豊かな生き方を提案されているよつに感じました。

子育てに苦労はつきものですが、男女問わず楽しかった・有意義な体験として振り返る方が多いのも事実です。同じように男女の協働がより充実した、豊かな人生のためのチャレンジと考える発想の転換も、大切なことだと気づかされた研修でした。



「みんなで防災老若男女ワークショップ」

共催 上陽町男女共同参画推進委員会

10月26日(土) 於：上陽公民館

星野地区男女共同参画推進委員会

小林 久仁隆

東日本大震災・熊本地震・熊本豪雨を体験された防災・安心プランナーの柳原志保さんをお招きし、「自分でできること」「家族でできること」「みんなでできること」をキーワードに具体的な防災への取り組み方を学びました。

参加者全員が、お米やホットケーキの粉を使った非常食やダンボール箱を利用した腰かけイス・簡易トイレを自作しました。これらを実際に体験してみると、防災への意識がより身近なものとなりました。

今回は小さなお子さんから年配の方まで多くのみなさんが参加されました。最後は講師「志保ママ」による東日本大震災復興ソング「花は咲く」の歌でワークショップをしめくくり、大変なことになるイベントとなりました。



矢部地域づくり協議会村づくり部会

令和6年8月12日

於 八女市矢部第一運動場

第42回矢部村花火大会

栗原チカヨ

矢部村では、地域づくり協議会村づくり部会において、男女共同参画の取り組みを行っています。令和2、3年は新型コロナウイルスの影響で中止になっていた矢部村花火大会ですが、令和4年に復活させたいとドライブイン形式での花火大会を提案し、10人の村づくり部会で話し合いを重ね、人と接触しない、車の中で花火を見ることが協賛会の全体会議で採用されました。

私たち村づくり部会では意見がよく飛び交います。また会議の際には、女性ならではの視点の意見やアイデアも出しやすい雰囲気があり、みんなで話し合い決定しています。

令和5年からは露店の出店もあり、自己管理のもと自由に歩けるようになりました。今年で3年目を迎えたドライブイン形式での花火大会は、矢部村青年団や地域住民有志のもと、たくさんの方々の協力をいただき、当日は300台の車が来場し、今年の大盛況で終わることができました。



「人生に効く脳科学」脳が創り出す男女のミゾ、人生の波」を聞いて

9月28日(土) 於：おりなす八女

金子さゆり

人工知能研究者の黒川伊保子さんの講演。チラシの見出し等からして興味深々で楽しみに参加させていただきました。

脳が創り出す男女のミゾについては、どこの家からも聞こえてくるような男女のすれ違いかみ合わない会話を具体的な例(妻が新しい服を着ていた時、家に帰ってきた時など)でお話されました。男女の脳に違いはないが、とっさの脳の使い方に違いがあるからだと言及されました。ミゾの原因を踏まえて、大切な人と会話するときは、第一声には特に気をつけ、いきなり否定せず、共感と思いやりをもって会話をすることでミゾは浅くなりそうです。

また、人生の波については、人の脳は生まれてから112歳まで進化し、脳の成熟に達するのは60代。このころ人生はますますおもしろくなり、旅と習い事の好機とのこと。

「人生の波は後半にーその為には健康が大事ー」と締めくくられ、会場の皆さんの気持ちのモチベーションが1オクターブ上がったかのような拍手につつまれました。

今後の生活に役立つこの講演に出逢わせていただいたことに感謝いたします。

女性のためのチャレンジ講座

「輝く私のためのSNS講座」～Instagram & A-1何となく～(全4回)

令和6年12月10日～19日
於：おりなす八女はちひめホール

皆さん、SNS使ってますか？今の時代、携帯電話は電話やLINEだけじゃもったいない。知らなかった世界にチャレンジしようと応募いただいた20名の方とInstagramの動画編集とA-1を学びました。

起業を目指したい、家族の記念日や子どもの成長を記録に残したい、仕事に役立ちそうなど、それぞれのいろんな目的を持ち参加していただいていた。

機種ごとのグループに分かれ、動画と音楽、文字を組み合わせていく作業は、熱中しワクワク感も感じる事ができました。どなたも自慢の動画を作り上げ、最終日の発表会はあたたかい笑い声に包まれました。最後にA-1「Genie」の使い方を学び、充実した4回の講座を終えました。この講座で出会った皆さんから受けた刺激やSNSで繋がれたことも、収穫のひとつです。

やりたいこと、勇気がなくて立ち止まっているかたも、今年は小さな一歩を踏み出して新しい世界にチャレンジしてみませんか？



編集後記

暑すぎた夏が過ぎ、秋を感じた日はごくわずか・・・そしてすぐに冬が来て、もう新年になりました。

若かりし頃に、年上の方が「1年があっという間に過ぎる」とよく言われていました。その時は、ピンときませんでした。自分がその年齢になって納得しました。あっという間にフィフティーです。最近では、俗に言う老眼を実感し、疲れが取れにくくなりました。「老い」を感じて色々大変さを実感する今日この頃です。しかし、それと引き換えかのように、色々な方々と出会い、親しくして頂き、何だかんだ楽しい日々を過ごせています。こちらの編集委員もその一つです。

充実した日々になれる全ての方々に感謝しながら、あっという間の1年を楽しみたいです。

田中 千明